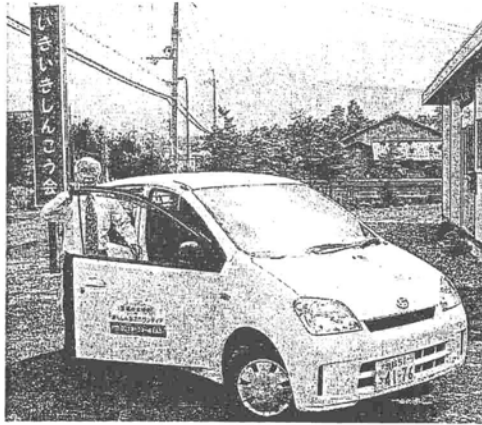


いきいき
しんこう会

NPO法人を設立

高齢者らの移送サービス

地域の福祉向上をめざす福知山市の「いきいきしんこう会」（山下真弘代表）が29日、NPO法人的に設立登記をした。昨



移送サービスで活躍する自動車と山下理事長

18. 両丹日日新聞 (7/30)



めてより充実したサービスを提供するため、法人化に踏み切った。移送サービスは「あんしん快足ボランティア」の名で取り組んでいる。会員制で、現在、福知山、綾部両市の約130人が登録。希望日時予約を受けて車いすにも対応した自動車など6台で、会員宅に出向き、通院や買い物など外出時の送迎をしている。

同日、駒場新町の同会事務所、財団法人損保ジャパン記念財団からの助成金の贈呈式があった。山下会長が損害保険ジャパン京都支店福知山支社の佐藤直彦支社長から、NPO法人設立資金

いが、今年3月に国土交通省が一定の条件を満たせば認める指針を示した。同会では「特定介護保険の導入を機に全国的に増えている有償移送サービスは、無認可で、さらに地域の人たちが安心して生活できるよ

19. 京都新聞 (7/30)

福祉移送充実へ

いきいきしんこう会 NPO法人に移行

福知山

高齢者らの移送サービスを行う福知山市の「いきいきしんこう会」が二十九日、NPO法人(特定非営利活動法人)に移行した。国が今年三月にまとめた移送サービスの法的ガイドラインに基づき、今後、行政に許可申請を行うため、役員たちは「正式に認められた活動にして、サービス拡充につなげたい」と意気込んでいた。同会は、運転が困難な高齢者らの移動手段確保を目的に、昨年十一月に発足した。福知山、綾部両市の高齢者ら約百三十人が会員で、一日二十一人が通院や買い物などのために利用している。社会的信頼を得て、移送サービスを拡充するため、NPO法人格の取得を決めた。損保ジャパン記念財団(東京)から、同法人設立資金三十万円の助成を受けた。今後、国が黙認してきた「白タク」から、ガイドラインに基づく事業者への移行を目指し、本格的な準備を始める。

山下真弘会長(理事長)

贈呈式の準備やらマスコミの手配など忙しい日々でしたが、大変貴重な体験をさせていただきました。今まであまり意識してきませんでした。地域に密着して活動を行うにあたりNPO法人となることのメリットを肌で感じる事が出来ましたし、損保ジャパンがその支援をしていると言うことを誇りに思いました。今回の贈呈先は支社代理店ともゆかりのある方でしたが、知らない間に申請をされていました。良い制度ですから、もっともっとPRすべきだな...と反省させられた一面もありました。[福知山支社]リーダー 佐藤 直彦 さん



移送サービスの車両を用意するいきいきしんこう会の役員たち(福知山市駒場新町)

は「法人化を機に地域高齢者の福祉向上のため、さらに努力したい」と話している。

大阪・兵庫地区から11団体が出席



損保ジャパン 記念財団 福祉助成贈呈式を開く

（助損保ジャパン記念財団（平野浩志理事長）は、障害者や高齢者福祉団体に対するNPO法人設立資金として平成16年度社会福祉助成金を1団体30万円、全国70団体に合計2100万円を助成する決定をし、その大阪・兵庫地区での贈呈式が、7月27日午後2時から大阪府中央区の損保ジャパン大阪ビル11階特別会議室で開催されたII写真上。特定非営利活動促進法の成立により、同財団でNPO法人の設立を支援する目的で平成11年度に助成を開始して以来、今年で6年目。これまでに全国570団体にに対し1億7000万円を助成している。



平澤 部長

局長、また、大阪地区の助成先5団体、兵庫地区の6団体、合わせて11団体から13人の代表者や関係者が出席した。



富沢 事務局長

贈呈式は、藤本敬介関西総務部総務課長代理の司会が始まり、主催者を代表してあいさつした平澤部長は、損保ジャパン社が、安田火災と日産火災が合併し、破たんした

大成火災を吸収して誕生した会社の経緯と、過日、副社長の村瀬氏が社会保険庁長官に就任した旨を述べるとともに、「特定非営利活動促進法に基づきNPO法人設立資金を助成している損保ジャパン記念財団の設立趣旨や、応募者が多くなった昨今、助成対象団体を高齢者や障害者福祉団体に絞って助成している」と現状を報告した。

成。これらの助成先の92%以上が法人化して活躍している」と紹介。「福祉系NPO法人は全国で9300以上が誕生していると言われているが、財団としては、障害者・高齢者福祉部門を中心に積極的に支援していく考えだ。わが国のこのような活動が発展していく中で、皆さまが先駆的な役割を果たし地域社会福祉の向上に貢献されることを期待している」と結んだ。

続いて、損保ジャパン記念財団の富沢事務局長は、NPO法人助成の特徴、応募の状況から選考概況について説明し、「NPO法人の認証を早く取り、わが国の市民活動を支える中核として福祉活動にまい進してほしい」とあいさつした。

決定通知書の交付に移り、松田関西総務課長からそれぞれの団体代表者に決定通知書が手渡された。

最後に助成先を代表して、「アトリー夢」代表の岡田智子氏が、「10年前に阪神・淡路大震災を体験し、全国から復興のために得た義援金を使ってボランティア団体を設立し、自分たちができるところから活動してきた」と、日常の活動の一部を紹介しながら感謝の気持ちを述べた。

贈呈式終了後は、助成先団体の代表者からそれぞれが所属する団体の事業内容や今後の目的などの披露があり、互いに懇親を深めた。

助成先団体は次のとおり。

- 〈大阪府〉 〓▽大阪障害者労働センター・マツサク（平野区）▽関西STS連絡会（浪速区）▽第三空間を支える親の会「つばさの会」（天王寺区）▽Handicapped workshop「フリーズ」作業所（平野区）▽かがやき（住吉区）
- 〈兵庫県〉 〓▽グリーン（神戸市長田区）▽アトリー夢（伊丹市）▽ボブリー（神戸市北区）▽生活支援研究会（神戸市東灘区）▽障害者共同作業所「にじのかげ橋」（神戸市東灘区）▽ゆうネットホソクール（西宮市）



初めてだったので、すべてが新鮮だった。恥ずかしながら記念財団の業務内容、役割、NPO団体との関係も全く分からないままスタートしたので苦労した。特に全国紙・地方紙（読売・産経・神戸）への掲載の為に根回しが大変だった。しかしながら、本贈呈式を通して当社が多くの面で社会に貢献していることを改めて体感できたことは非常に有意義だった。また、マスコミを通じて、業界ならびに社会に多少なりともアピールできたのではないかと自負している。

〔関西総務部〕 藤本 敬介 さん

損保ジャパン記念財団 保険ジャパン社長は、
 (理事長)平野浩志損害 大阪府中央区の損保ジャ
NPO助成金を贈呈
 大阪、兵庫の11団体に
 損保ジャパン

代表の方お二人が来社されましたが、ほとんどボランティアの様なNGOの仕事を、非常に若い方が真面目にかつ明るく取り組まれておられる事に驚きました。

[西兵庫支店]リーダー
 新見 敏彦 さん



26. 西兵庫支店にて (7/14)

パン大阪ビルで「NPO法人設立助成金贈呈式」写真を開催し、大阪・兵庫の民間11団体に助成金を贈呈した。同財団が今年度助成を実施した団体は全国で70団体。各団体に30万円、合計2100万円を助成した。

同助成制度がスタートし、今年度で6年目を迎え、助成先団体と助成金額は全国570団体、1億7千万円を数える。助成先は地域に根差し、高齢者・身体障害者福祉を目的としている民間団体。NPO法人設立に向け、検討段階にあるところを中心で、同財団では資金用途を問わないというユニークな助成制度だ。

助成先を代表して、どりー夢(兵庫県伊丹市)の岡田智子代表は「阪神



大震災を乗り越え、地域に密着した活動を進めてきた。今後も一層地域のための活動に尽力したい」と、あいさつした。

助成先は次の通り。

- ▽大阪府 大阪障害者労働センター(大阪市平野区) 関西STS連絡会(同浪速区) つばさの会(同天王寺区) フリージア作業所(同平野区) かがやき(同住吉区)
- ▽兵庫県 神戸リーフケリン(神戸市長田区) ポプリ(同北区) 生活支援研究会(同東灘区) にじのかけ橋(同) どりー夢(伊丹市) ゆうネットホンクール(西宮市)



25. 日刊自動車新聞 (8/10)



贈呈式には3団体5名の参加を頂きました。光内支店長より損保ジャパン記念財団の設立趣旨、現在までの活動実績等をお話いただき、参加者の方は大変感動されておりました。式後の懇談会では各団体の方が、これまでの活動内容や将来のビジョン等について熱く語って頂き、たいへん感銘をうけました。

[岡山支店]販売業務支援スタッフ
 中村 禎宏 さん



27. 岡山支店にて (8/24)





社会福祉の向上に期待

—損保ジャパン記念財団—

はじめの一步設立準備会を支援

損保ジャパン記念財団の支援を受けた特定非営利活動法人はじめの一步設立準備会の川上由紀子理事長(左)

支援する財団法人損保ジャパン記念財団(平野浩志理事長)の今年度の支援団体が、特定非営利活動法人はじめの一步設立準備会(川上由紀子理事長)に決まり二十七日、損保ジャパン奈良支店権原支社(権原市内膳町)で贈呈式が行われた。

同財団は、損害保険ジャパンの社会貢献活動の一環として一九七七年設立され、九九年から全国の高齢者・障害者福祉団体を対象にNPO法人になるための費用を助成している。今までの助成は四百九十五団体、千五百万円で、今年度は、応募二百二十五団体のうち、七十団体を審査、選考し、二千百万円の支援を行った。

贈呈式では、小笹猛雄 損保ジャパン奈良支店長が「地域の社会福祉の向上に貢献されることを期待している」とあいさつ。小中幸成上牧町社会福祉協議会事務局長が「家族の関係が変わってきた社会の中で、市民活動が重要だと感じている。頑張ってもらいたい」と話した。

特定非営利活動法人はじめの一步設立準備会は、知的障害児(自閉症)を持つ親五人で結成され、北葛城郡上牧町で活動を行う。川上理事長は「助成金は大切に使用していただきます。知的障害児は、周囲の理解が得られにくく、専門家がいない施設も少ないため、預ける場所もなく途方にくれる親が多い。安心して気楽に利用してもらえる施設として療育、デイサービス、放課後支援や余暇を一緒に過ごすなどの支援をしていきたい」と話した。



ゆうハートNPO化

安芸市の 共同作業所 損保ジャパン支援

小規模通所授産施設へ「清掃作業やナスの袋詰の移行を目指している安芸市の精神障害者共同作業所「ゆうハート安芸」(永田清子所長)に二十八日、損保ジャパン記念財団(東京)からNPO法人の設立資金として三十万円が贈られた。

「精神障害者が地域で暮らし、社会参加するための施設を」と、安芸地域家族会と芸陽病院家族会が主体となって設立。現在、県東部の約二十人が



大久保支店長=右=から目録を受け取る藤原代表 (安芸市庄之芝町)

感謝の言葉を述べた。

しかし無認可で厳しい運営が続いているため、小規模通所授産施設への移行を検討。設置、運営主体となるNPOの法人格取得を目指している。

同財団は昭和五十二年度から、毎年社会福祉助成を行っている。今回は全国七十の障害者や高齢者の福祉団体に計二千百万円を贈る。

この日、同市庄之芝町の損保ジャパン安芸営業所で贈呈式が行われ、同社の大久保保一高知支店長、市福祉事務所長らが出席。共同作業所の藤原速雄代表が「活動を通じ市民に貢献できるよう一丸となって努力したい」と

損保ジャパン記念財団
NPO法人設立助成金贈呈式

30. 中国新聞 (7/27)



★NPO法人設立へ助成金
損保ジャパン記念財団は
(東京)は二十六日、特定
非営利活動法人(NPO法
人)設立を目指す視覚障
害者の介護支援グループ「ま
ごころ」(広島市西区)に
設立助成金を贈った。
損保保険ジャパン広島支
店(中区)で、多田憲史支
店長が岩見新平理事長に助
成金三十万円の目録を手渡
した。まごころは視覚障害
者自身が設立した団体とし
て、助成金を贈る対象に選
ばれた。

31.

今回は代役で担当したよう
な形でしたが、選に漏れた
応募者全員に贈呈できれ
ば、もっと多くの人に喜んで
もらえるのにと感じた。
[九州中央支店]リーダー
古賀 光彦さん



贈呈式では大変感謝されました。当
社の存在を知らなかったと言われア
ピール不足を実感。今回の贈呈先
は視聴覚障害者自身での設立であ
り、贈呈のみに終わることなく、今後
の活動への支援が必要だと感じまし
た。

[中国業務部総務課]
長岡 恵美子 さん

32.

表彰式は無事に終了させていただきました。
昨年度はマスコミの方々にも来ていただき盛大に行いま
したが今年度はマスコミへのニュースリリースを直前までや
り続けたにもかかわらず反響がありませんでした。
毎年、取り組み続ける(助成金を出し続ける)ことに意義
があると思いますが、恒常的になり新鮮味に欠けているので
まう危険もあると思います。巨額の助成金が出ているので
すから、それを生かすためにはもうひとひねり工夫が必要
だと感じています。 [北九州支店] 前田 綾 さん



33. 四国新聞 (7/28)



福祉団体に
30万円贈呈
高松、損保ジャパン
損保ジャパン記念財団
は二十七日、高松市紺屋
町の損保ジャパン高松支
店で、障害者のIT技能
習得などを支援する「障
害者在宅就労サポートZ
e.Ro」(高松市)に

NPO法人の設立助成金
として三十万円を贈呈し
た。
NPO設立助成は同財
団が行っている社会貢献
活動の一環で、五年前
に開始。毎年、応募の
あった全国の高齢者・
障害者福祉団体から選
んでおり、県内では二
回目。
贈呈式では、岡田広志
損保ジャパン高松支店長
が同サポートの川田英司
代表に助成決定通知書
を手渡した。写真。川田
代表は「NPO設立や障
害者の社会就労を支援す
る講習会の開催などに活
用したい」とお礼を述べ
た。

